2010.01.17

Culto de Gospel House

Levanta-te, resplandece, porque já vem a tua luz,
e a glória do SENHOR vai nascendo sobre ti.
Isaías 60:1

Gospel House 2010 年間聖句
起きよ。光を放て。
あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。
イザヤ書　第 60 章 1 節



Gospel House
999-0361 山形県東置賜郡川西町玉庭 6708-5
0238-48-2757 , 090-2954-4749 , 090-2953-2272
e-mail: euteamo@ms5.omn.ne.jp
HP: http://gospellife.blog19.fc2.com/

✞ *Palavra de DEUS*

「いのちのことば」

Ⅰヨハネ 1:1-4

1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、

2 ――このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。――

3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

4 私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。

2010 年元旦礼拝メッセージ

起きよ。光を放て。
あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。　イザヤ書 60:1

あけましておめでとうございます。ゴスペルハウスでは、2010年、イザヤ60:1を年間聖句に選びました。60章を含むイザヤ書の最後の数章は、救いと回復、希望のメッセージです。

年間聖句の中の「光が来て」というのは、「イエスさまが来て」ということなのです。
「イエスさまがあなたのための光としてきました。神様の栄光は、あなたの上に輝きます。さあ、起きなさい。立ち上がりなさい。光を放ちなさい。」
このようにいっているのです。

すると「だから私たちは立ち上がらないと。」「クリスチャンとして、世の光として輝いて生きないと。」「あかしのたつ生活や、伝道にも力を入れないと。」などと考えてしまうかもしれません。
もちろんそれらは何も悪いことではありませんから、禁止することはないでしょう。しかし、そうしてしまうと、希望のメッセージではなく、義務や拘束のメッセージになってしまいます。

創世記の第1章は、天地の創造について書いてあります。
「初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。そのとき、神が「光よ。あれ。」と仰せられた。すると光ができた。」(創世記 1:1-3)
光は、神様の「光よ。あれ。」という言葉でできたのです。「地」や「水」や「やみ」は、光を生み出すのに何の努力もしていません。

他の創造物、例えば動物や魚や植物の創造も同じです。大地や海が努力して生み出したものではありません。神様の言葉だけで作られたのです。そう、神様の言葉は「創造の言葉」なのです。神様の言葉に、創造の力があるのです。

そのことを踏まえて、年間聖句のイザヤ60:1を読みましょう。そこには確かに、回復と希望のメッセージがあるのです。義務や拘束は、ありません。

イエスさまが、あなたのための光として来ました。イエスさまによって、あなたと神様との関係は回復されたのです。あなたは、神様の「創造の言葉」の働く舞台なのです。あなたがどんなに傷つき倒れても、神様はあなたを見捨てません。神様の創造の言葉が、あなたを支え、立ち上がらせます。あなたが自分自身を、どんなに無価値だと思っても、神様はあなたを見捨てません。神様の創造の言葉が、あなたを輝かせるのです。あなたの努力ではなく、神様の創造の言葉が成し遂げるのです。

こんな生き方ができたら、素敵ですね。そのためのキーはただ一つです。
それは、あなたを「創造の言葉」の舞台として、神様に明け渡すことです。
神様の言葉を、教理や知識ではなく、生きた言葉として、あなたの人生に迎えることです。
最高の舞台プロデューサーに、あなたが主演の舞台を創ってもらいましょう。
愛と喜びのあふれる舞台で、あなたは光り輝くのです。
光り輝いていて、いいのです。

ゴスペルハウス メッセージ 2010.01.10

「見えないものを見て生きる」 マルコ 13:5-8

この聖書箇所の他にも、聖書には世の終わりのことが多くの箇所で描かれています。そして、その解釈が難しく、ひとりで悩んだり、解釈の違いで喧々諤々の論争すらあったりもします。

私が小学生のとき、愛知県の知多半島に住んでいたのですが、こんな論争がもち上がりました。それは「高峰山(近所で一番高い山)の頂上に登ったら、富士山が見えた。」という同級生の発言が発端でした。「見えるはずがない」「いや、見えた」「見まちがいだ」「うそつき」「本当らしい」等々、男子が9人しかいないクラスで9人の大論争です。

らちが明かないので、休みの日にみんなで登ってみることにしました。9人が親の目を盗んで、高峰山の麓に自転車で集合しました。そんなに高くない山ですが、小学生ですから汗をかきかき一生懸命登りました。そして、頂上に到着。

そこに広がっていたのは、素晴らしい光景でした。右手(西)に伊勢湾、左手(東)に三河湾が一望でき、水面がキラキラキラキラと輝いているのです。9人の少年は、しばらく声を出すのを忘れてしまいました。それほどに、はじめて見る光景は美しかったのです。実際に富士山が見えたかどうかは忘れてしまいましたが、そんなことは消し飛んでしまうような感動だったのです。

世の終わりの論争も同じだと思うのです。神様は私たちキリスト者に、絶望の終末を用意してはいません。なぜなら、愛する独り子イエスさまを、私たちのために十字架にかけた方なのです。私たちが体験する終わりの時は、素晴らしいものとしか考えられません。でなければ、イエスさまの命がけの愛は、無駄になってしまいます。

私は世の終わりの論争に参加しません。小学生の私たちは9人で教室で論争していても、何も生み出しませんでした。でも、汗をかきかき一歩一歩登った先に見えた光景は、素晴らしい感動だったのです。だから、まだ見ぬことで論争はせず、与えられた一日一日を、いえ一秒一秒を、汗をかきかき一歩一歩進んでいこうと思うのです。まだ見えていない光景を見ながら生きるのです。

そんな視点で、また、そんな生き方で聖書を読むなら、聖書はあなたの前でもっともっと輝きを放ってくれます。アブラハムたちの生涯、預言者の言葉、詩篇、イエスさまの言葉、手紙、そのすべてが輝きだすのです。
輝きに包まれて、神様の愛に包まれて、希望の人生を一歩一歩、歩みましょう。
あなたに用意されている終末は、最高なんですから。

今週は、試験的に日曜日に礼拝をしてみました。月に1度くらい、このように試験的に別の時間帯で礼拝をしようと考えています。ご意見やご要望があったら、お知らせください。